



奥からシンク、調理台、グリルとなっていて、2人でも作業がしやすいキッチンをプールサイドに設けて、おもてなしの料理を。イタリア・トスカーナの家 (p.128) から。

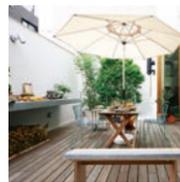
調理して、食べて、片付けるといった一連の動きが、屋外で完結

この数年、贅沢なキャンブルグラ
 ンピングが注目されています。また、
 キャンプほど大自然の中ではなくて
 も体験できる、家に連続した屋外空
 間で食事することの気持ち良さ、豊
 かさへの関心がさらに高まっている
 のも確かです。
 モダンリビングではこれまで「過
 ごす庭」「庭をリビングに」といっ
 たテーマを通じて、屋外で過ごす喜
 びを満たす空間づくりについて取
 り上げてきました。そして、キッチ
 ン機能を庭やテラスに設けて、料理
 まで一貫して外で完結できる実例
 をこれまで探してきましたが、あま
 り多くないのも事実です。屋外で食

事をする場合、キッチンが室内にあ
 ると、料理の作り手と食べる人が分
 断しがちで、コミュニケーションが
 希薄になり、結局テラスに出るのが
 億劫になることもあります。
 その点、火元や水回りを備えたキ
 ッチンが屋外にあれば、調理して食
 べる、片付けるといった一連の流れが
 屋外で完結でき、作り手と食べる人
 を分断することはありませぬ。また、
 食器類やドリンクから、クッション
 などを収納する機能があれば、屋外
 ですべて済ませることが出来ます。
 キッチンを外に設けることには、
 多少のハードルもあります。家具の
 ように持ち出せないこともあり、最

初からアウトドアキッチン&ダイニ
 ングを想定してプランニングすること
 が大切です。また、写真のトスカ
 ナの家のように、屋外用のロールス
 クリーンを設けるなど、特に火元に
 対する防水への配慮が不可欠です。
 電源を設けた造作のカウンターを
 キッチンとして活用したり、室内のメ
 インのキッチンと大きな開口部を介
 して機能させたり、屋外にLDKの機
 能を本格的に持ち出したり。建
 築家のプランによって、アウトドア
 キッチンへのアプローチはさまざ
 ま。今回紹介する5つのスタイルに
 は、屋外での食事を何倍も楽しくさ
 せる工夫が詰まっています。

STYLE 4



＋カウンター型
 p.134

STYLE 5



内外一体型
 p.136

STYLE 3



軒下活用型
 p.132

STYLE 2



完全屋外型
 p.130

STYLE 1



壁面収納型
 p.128

火元、水回りに工夫を凝らして アウトドアキッチンをつくろう

テラスにダイニングテーブルを置いて食事することは、一般的になりました。
 そこにキッチンがあれば、準備する、片付けるといった機能が高まり、
 屋外での食事のシーンが大きく変わります。そんなコンセプトでつくられた
 “アウトドアキッチン”で、これからの暮らしをより豊かに!

TERRACE KITCHENS MAKE EATING FUN



壁面収納型

スクリーンを開けばキッチン、
プールサイドに本格的な食空間が出現



週末には親戚や友人を呼んで、プールサイドで食事とワイン、会話を楽しむ——そんな習慣を可能にしたプールサイドキッチンがある。イタリア・トスカーナの高級別荘地としても名高いエリア。そこで18世紀に建てられた農家をリノベーションした二世帯住宅。建て主はそれぞれに子供のいる家庭を持つ若い姉妹だ。生活のリズムもインテリアの趣向も違うため、2世帯のプライベート空間を分けつつ、彼女たちのライフスタイルを象徴するような、共有できる空間も欲しい——そんな希望に応えたのが、庭に設けた「外の食卓」だった。

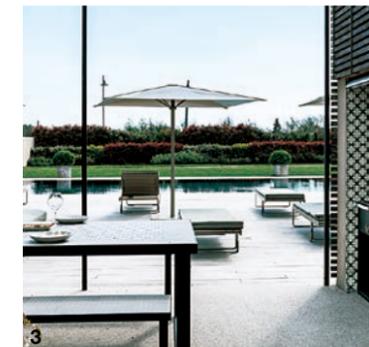
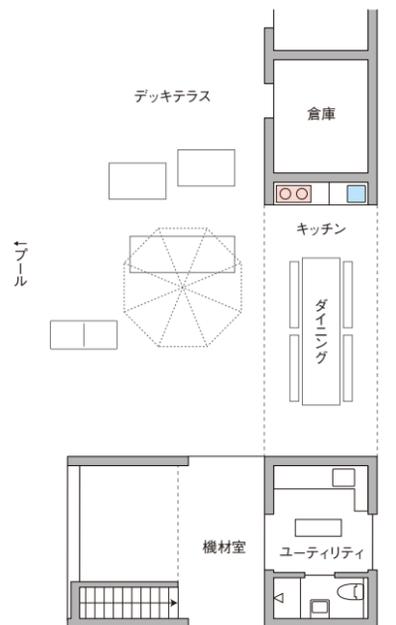
広大な庭の中央に、各世帯の居住スペース2棟が隣接した母屋があり、そのメイン棟のすぐ横に、離れのようなプールサイドテラスをつかった。パーゴラやタイルによってダイニングを設え、コンパクトなキッチンも併設。キッチンは水場だけでなく、調理台、グリル（火元）や電源も備えていて、食材を持ち出せばそこで簡単な調理やBBQができる。キッチンの上部には照明も仕込まれていて、夜でも手元が見えやすい。2人でも作業しやすい設計。ロールスクリーンで全体を閉じることも可能で、雨の日は降ろしておけば濡れる心配がない。

「人を招いて集まることが日常の私たちにとって、“外の食卓”に小さくてもキッチンをつかったのはとても便利で、大正解でした」と姉のクラウドディアさんは言う。この空間があることで2世帯の絆がより深まったようだ。

1 全長4mもある大きなテーブルを囲む、パーゴラのあるテラスダイニング。建物の側面に、コンパクトなキッチンが見える。ダイニングエリアを挟む板張りの箱は、右側がユーティリティで、左側が倉庫に。幅6×全長16mのプールは冬でも泳げるように温水システムを完備。
3 テラス、プールの向こう、敷地の外周にはぐるりと生垣が植樹されていて、子供たちが遊んでいても目が届く。

DATA

- イタリア・トスカーナの家
□ 設計/b-arch
アレックス・ロ・カベラッロ＋
サブリーナ・ビニャミ
□ 敷地面積 / 8700.00㎡
□ 延床面積 / 530.00㎡
□ 家族構成 / 二世帯



撮影 / Monica Spezia (ML233号掲載)

Point ロールスクリーンを
下げれば壁面に

Point 仕込んだダウンライトで
夕方のパーティー対策

Point ガスを引くのが
大変なので、
中にガスボンベを収納

ロールスクリーンを開けるとキッチンが登場。キッチンとテーブルにパトリシア・ウルキオラがデザインしたイタリアのMutina社のタイルを使用。



キッチンの上の軒にはスポットライトを配し、夕方からの食事準備にも対応。キッチンには7cmのキャスターを付け、水はけを良くした。

Point ふた付きのバーベキューグリルは防水対応

Point キッチンの面材は自然石とステンレス。水に強く、耐久性が高い

Point キッチンカウンターはスライドして広く使える

DATA

K邸

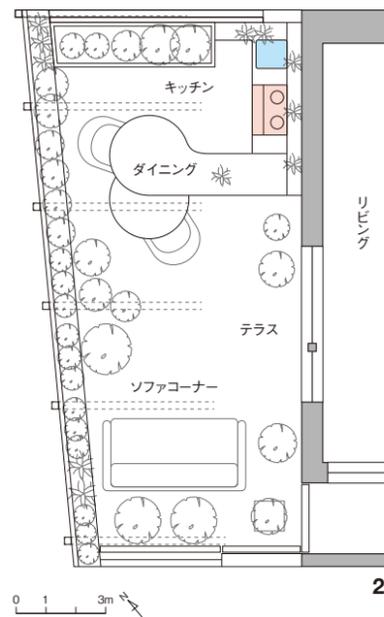
- 庭園設計 & キッチン製作 / GREEN SPACE 紅林 豊
- 敷地面積 / 120.00㎡
- 延床面積 / 109.00㎡
- 家族構成 / 4名



都内の郊外にある戸建て住宅の2階にあり、LDKに隣接しているテラス。ここは、ほとんど使われていなかった駐車場の2階のバルコニーをリノベーションして生まれた空間だ。部屋としての快適性をテラスに求め、室内と同じ機能を備えることで、「屋外のLDK」が実現した。

ダイニングを空間の中央に配し、日差しが入る南側をリビング、北側をキッチンとした。テラス自体は、縦6×横2.7mほどのコンパクトな空間ながら、円形のダイニングテーブルのため、動線はスムーズに。ダイニングテーブルは、このリノベーションを手掛けたGREEN SPACEの紅林 豊さんのオリジナルデザイン。天板はメンテナンスしやすい御影石を使用、円形の部分は2重になっていて、下の1枚はスライド式。広げると、テーブルの面積が約2倍になり、大人数のパーティーにも対応できる。

キッチンは、室内のLDKと面する壁面カウンターに組み込まれたスマートなデザイン。さびずに耐久性が強い建材が屋外使用に求められるため、面材は自然石とし、フレームはステンレスで構成。また、カウンターの下部に、ガス燃料（プロパンガス）を収納できるようにした。ガス燃料のハイカロリーグリルは、炭火と違い、火をおこしたり、後始末をしたりする手間が省ける。水回りと共に、器などの収納ができるキッチンは室内とは完全に独立して使える。まさに完全屋外型のアウトドアキッチンだ。



撮影 / 下村康典 (ML195号掲載)

完全屋外型

造り付けカウンターにバーベキューグリル
すべてに防水仕様を徹底

- 1 テラスの床は明るい色調の大判のタイルをずらして敷くことで、視覚的に明るく広々と感じられるようにしている。
- 2 ガスコンロが2口、シンクと隣り合わせて配し、機能的に。
- 3 テラスにあるプランターには、季節ごとにハーブを植え替え、収穫した野菜を料理して、ホームパーティーに訪れたゲストにふるまうこともある。長手方向の壁面の目線の高さにプランターを配し、植物の帯をつくっている。



軒下活用型

雨の届かない奥側にガスコンロ
いわば、窓のないダイニングキッチン



2



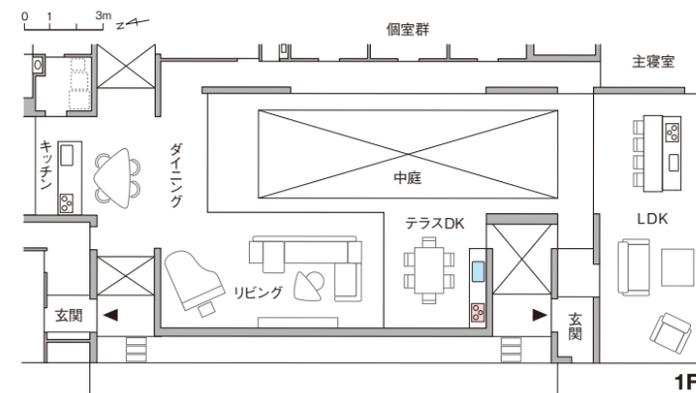
1 中庭を介して、反対側の廊下の様子をうかがえる。いずれの方向からも視線が中庭に抜けるプランに。2 中庭も松山さんがデザイン。四季の移り変わりを屋内にしながら感じられる。3 キッチンに向かって左側にシンク、右側にガスコンロを配した。独立した食空間として、朝昼晩、さまざまなシーンで使うことができる。4 中庭から写真奥の半屋外のダイニングキッチンと、大開口でひと続きになるリビング。屋根を支えるために必要な柱を極力細くし、サッシと重ねてさらに黒く塗装することで存在感を軽減している。

Point 軒の深さは4.8m。
十分に雨を
しのげるサイズ

Point キッチンには水回りと
ガスコンロを完備

Point キッチンの足元に
電源を設けて
さらに使いやすく

DATA
YU Residence
□ 設計 / 松山建築設計室
松山将勝 + 野崎泰一
□ 敷地面積 / 1342.68㎡
□ 延床面積 / 432.36㎡
□ 家族構成 /
夫婦 + 子供3人 + 祖父



リビングの隣、南側には、半屋外のダイニングキッチン。リビングと同じ床材と壁材を使うことで、内外の一体感を強調。松山さんは、床だけでなくリビングの壁にもタイルを張り、間接照明で部分的に素材感を強調した。「大規模な口の字形の平屋では壁がより際立ちます。壁が住み手の個性の表現である家具やアートの背景になりつつ、インテリアの要素として程よく主張するようにしました」。

半屋外のダイニングキッチンはガスコンロを完備しているので、そこで料理好きの祖父が調理をし、子世帯と共に食事を楽しむ。ここが二世帯の良好なコミュニケーションの場にもなっている。LDKに隣接しながらひとつの部屋のように独立性の高い、半屋外の食事空間だ。

根の架かった、半屋外のダイニングキッチンは、軒を4.8mと深く設けることで、壁にアートを掛けて室内のように演出ができる。ここは中庭の一角。中庭を囲むように空間を口の字形に配した平屋の設計を手掛けたのは、建築家の松山将勝さんだ。

場所は福岡市近郊の住宅街。大きなコンクリートの箱の中に、プライバシー保護という要望に応え、「閉じていながら開放的で変化に富んだ内部空間をつくること」を設計の主軸とした。「ほとんどの部屋から中庭に視線が抜けるよう、口の字の長手にリビングを、短手にダイニングとキッチンを置きました。そうすることで、家族が互いの気配を感じながら場所ごとに異なる中庭の雰囲気を楽しめます」と松山さん。

3



4



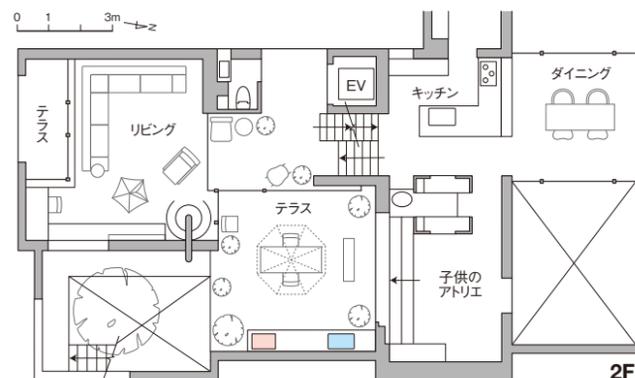
DATA

3つのコートのある家

- 設計 / K+Sアーキテツク 佐藤 文+鹿島信哉
- 敷地面積 / 295.97㎡
- 延床面積 / 361.04㎡
- 家族構成 / 夫婦+子供2人

＋ カウンター型

水回りと電源、カウンターがあれば、
そこが調理空間に



撮影 / 山本育憲 (ML228号掲載)



1 カウンターの上には食材や調理道具だけでなく、植物を飾ることもある 2 テラスとひと続きになった子供のアトリエ。内外の床のレベル差を利用して、ベンチを兼ねた階段が設けられている。3 子供のアトリエ側から「庭部屋」を見ると、右方向、リビングの奥まで視線が抜ける。4 エレベーターホールとリビングから見たテラス。L字型の開口を開け放つと内外がひと続きに。カウンターには火元はないが、その下の電源を使って卓上コンロなど火元を増設することができる。壁には手元を照らす照明がつく。

「庭部屋」は約5×6mのウッドデッキのテラス。2階の南側で日当たりが良く、空へと視線の抜ける場所に位置しているのが、「3つのコートのある家」の「庭部屋」。子供のアトリエ、LDKからアプローチでき、住まいの中心に配置されている部屋だ。ただ、リビングとはあえてコーナーで部分的につなぎ、子供のアトリエと床のレベル差を設けているので、内外の行き来はスムーズでありながらつながりすぎることがなく、テラスで過ごしていると、この庭がひとつの部屋に感じられる。「庭部屋」には、中央にパラソル付きのモダンなダイニングセットがあり、壁際には本格的なBBQセットが設置されている。住み手の1さんはここで家族やゲストと共にランチをしたり、

ティータイムを楽しむ。2人の子供たちにとっても広い「庭部屋」は格好の遊び場でもある。「テラスでの食事の準備や後片付けのために水場を設けることは、設計当初から必須の要望でした」と住み手の1さん。この住まいを手掛けた建築家の佐藤 文さんと鹿島信哉さんは、1さんが作業しやすいように、壁沿いにシンク付きのコンクリートのカウンターを設けた。水場があるのでプランターの水やりや植え替えもストレスにならない。火を使う調理は卓上コンロでできる。「庭部屋」以外にも外部空間を随所に設けたのも、この家の特徴。ほぼすべての部屋が外部に接し、庭に向かって大開口が設けられている。こうして内外をひと続きにすることで、住まい全体を豊かにする「生きた庭」を造っている。

室内ではなく、テラス側にドリンクカウンターがあることで、キッチン、ダイニングと外部とのつながりが深まり、動線もスムーズに。



Point LDKとテラスの中継地点になるドリンクカウンター

Point ドリンクカウンターだけに。屋内キッチンと有機的につながる

Point キッチンの収納には、ドリンク専用の冷蔵庫を設置

TERRACE KITCHENS
MAKE
EATING FUN

STYLE 5

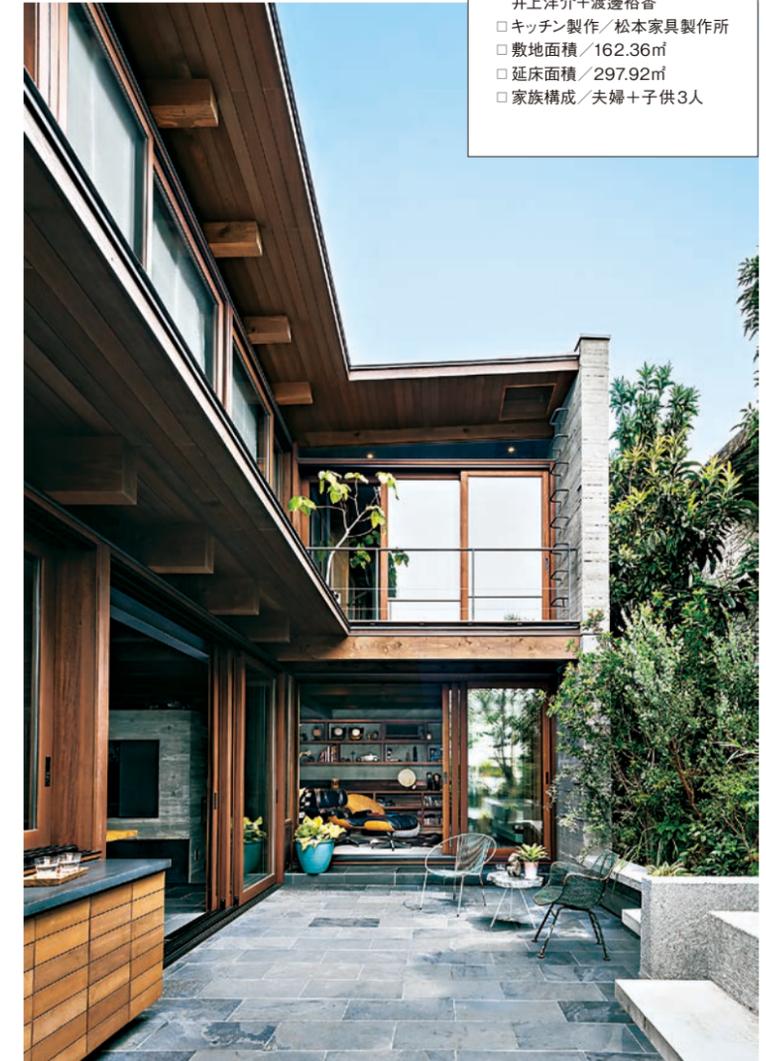
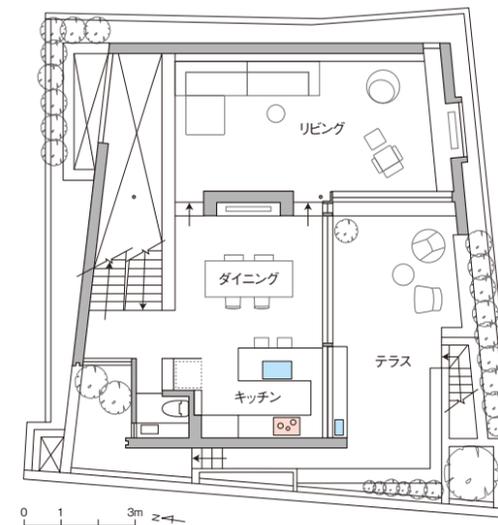
DATA

- 下北沢の家
- 設計 / 井上洋介建築研究所
井上洋介+渡邊裕香
 - キッチン製作 / 松本家具製作所
 - 敷地面積 / 162.36㎡
 - 延床面積 / 297.92㎡
 - 家族構成 / 夫婦+子供3人

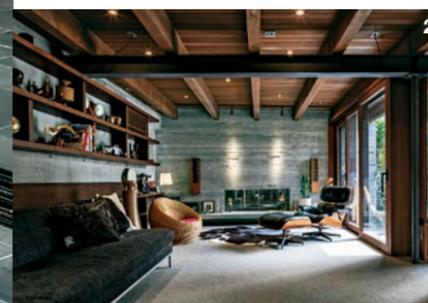


内外一体型

屋内のキッチンの窓を開けると、外のドリンクカウンターにひと続き



左手にドリンクカウンター。内外で床材を統一させ、テラスがリビングへとつながるプラン。



1 ダイニングキッチンからテラスを望む。「夜、テラスで過ごしていると、ダイニングの明かりが浮かび上がりドラマチックですよ」と住み手のKさん。2 リビングには、世界各国で買い集めたプリミティブな雑貨がコーディネートされ、コンクリート、鉄、木といった異素材ミックスの空間になじむ。

撮影 / 梶原敏英 (ML241号掲載)

都内の住宅密集地にある敷地は49坪。ここで住み手が望んだのは「テラスで食事を楽しめ、自然を感じられる家」だ。建築家の井上洋介さんは、コンクリートと鉄、木といった異素材をミックスさせることで、住み手が望んだ「100年たっても色あせない家」というリクエストに応え、住宅地にありながら自然を感じつつ、屋外での食事を楽しめる工夫を各所に込めた。

子供が3人いることから将来の二世帯を想定し、この家はRC造地下2階+混構造2階の計4層のプランとなった。地下1階の玄関を起点に、階下はゲストルーム、光に導かれて階段を上がると、1階にテラスと一体のLDKが登場する。ダイニングとキッチン、テラスの床はブラ

クスレートで統一させ、建物の窓を開け放せば、内と外が一体になる。テラスに設えたコンクリートのベンチに腰掛けて、食後のコーヒーをいただくシーンも想定してつくられた。

天気が良いときには、食の場そのものがテラスへと広がる。キッチンの窓を開けると、軒下に設けたドリンクカウンターとひと続きに。窓越しに料理をサーブできるだけでなく、カウンターの下には冷蔵庫が収納されているため、冷たい飲み物をそのままテラスで提供できる。ドリンクカウンターにはシンクもあり、洗い物もテラスで済ませることができる。ダイニングキッチンに設けられた大開口を通じてテラスと一体になる——ひとつの食空間として使えるように考えられたプランだ。